連歌師・宗祇没後500周年記念祭

物語を子供らがミュージカル上演

吉備で来月

室町末期の連歌師、飯尾宗祇（一四二一—一五〇二）の生誕地と伝わる吉備町で三月二十二—二十四日、没後五百年祭が開かれ、一連の行事の締めくくりに、地元の子どもらが登場するミュージカル「KATSU」が上演される。猿楽師の家に生まれた宗祇が連歌と出会うまでの成長の物語で、脚本や音楽、衣装はすべてオリジナル。狂言もまじえたユニークな舞台で、本番を前に参加者らのけいこにも力が入っている。

宗祇は文学性と芸術性を持たせた連歌を確立。和歌の西行、俳句の芭蕉とともに三大漂泊詩人と称される。

十七世紀の伝記などから吉備町生誕地説が有力で、同町下津野には県指定文化財の屋敷跡もある。町教委が中心となり、数年前から没後五百年に向け、準備を進めてきた。

ミュージカルの脚本と演出は地元に本拠を置く「劇団いこら」主宰の栗原省さん(73)が担当。タイトルは宗祇の少年時代の名前「勝」から取った。

猿楽師の子として芸を仕込まれ、家族との別れを体験しながら連歌と出会うまでを想像力豊かに描いた。「子どもたちにも理解できるよう、自分らしく生きようとする少年の姿を描いた」と栗原さん。

キャストは小中高校生から大人まで二十七人。昨年九月にオーディションで町内外から募り、うち二十一人が演劇は初めてという。

約二十曲のオリジナル曲に合わせたダンスは、プロの振付師による練習が十月から始まり、初めは動きや表情が硬かった子どもらも、最近では表現力豊かになってきた。

また、劇中で大名や猿の登場する狂言「靫猿（うつぼざる）」を演じる場面があり、大蔵流狂言師の安東伸元氏が指導。独特の動作や言い回しを特訓中だ。

躍動感あふれる舞台を目指し、ダンスの練習に励む子どもたち（吉備町で）

少年期の勝にふんする町立御霊小六年、栗生千永実さん(12)（吉備町垣倉）は「狂言で、跳びはねる動作が難しい」と話すが、学校でもせりふのけいこをするという。勝の恋人役、町立吉備中一年、中尾絵理香さん(13)（同町小島）は「新しいダンスを覚えるのが楽しい」と意気込む。

百三十八着の衣装はすべて手作り。元大阪芸大教授でオペラやバレエなどの舞台美術で知られる板坂晋治さん(72)が、宗祇があこがれた富士山を背景に描く。

公演時間は約一時間四十分で、二十四日午後零時半、同三時からの二公演。記念祭では、同町土生の禅長寺での法要や、全国のゆかりの町の関係者が参加するパネルディスカッション、作家の渡辺淳一氏の講演会も行われる。すべて無料だが、一部整理券が必要。問い合わせは町教委社会教育課（0737・52・2111）へ。

374人が快走

古座でシーサイドマラソン

第十二回あらふねシーサイドマラソン大会（古座町など主催、読売新聞大阪本社など協賛）が二十四日、同町田原の荒船海岸周辺で開かれ、県内を中心に京阪神などから参加した三百七十四人が快晴の下、健脚を競った＝写真。

近くの国民宿舎を発着点に、親子二人が一緒に二㌔を走るファミリーの部から年齢、男女別に三、五、十㌔の三コースを走る計十部門に分かれてタイムを競い合った。

各部門の優勝者は次のみなさん。

◇ファミリー（2㌔）玉置操、玉置弘憲（奈良県十津川村）◇3㌔▽小学男子　賀城一誠（すさみ町）▽同女子　国正茜（同）◇5㌔▽中学男子　国正靖（同）▽一般男子1部　糸

21

＜6＞

山」

に

中は考えにくいとする。

県内大手の学習塾は予想する。「順位づけが明確になり、統廃合のケースが出

◇

「県を代表する進学の名門」、「進学ニーズが極めて高い」。桐蔭（和歌山市）

陽

学校をそれぞれ表現する。ともに、中高一貫で進学指導に重点を置く私学への対抗意識を口にした。

は「塾も少なく、学校への期待は大きい。親の側からもサポートしたい」と意気込む。

天気

		きょう	和歌山	潮岬	高野山
北部	南部	6時	☀	☀	☀
北東の風（あす）	北東の風（あす）	9	☀	☀	☀
		12	☀	☀	☀
		15			

降水確率は

あすのこよみ
2月26日
（火曜日）
先負
日出 06:33
日入 17:53
月出 16:30
月入 05:49

和歌山支局のホームページ
http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/wakayama/

洋食の フライヤ ●年中無休 ヒロセ

楽器の ナルミ (422)3735

ガラスが狙われている
犯ガラス
和歌山市舟津町3-15

24時間 電話でOK Taihei Family Life Supporter ご利用は計画的に